

常盤新聞

刊夕日六廿月一

印刷所 石城郡平町橋町廿五番地
電話 二二四番

一、部五銭
二、部十銭
三、部二十銭
四、部五十銭
五、部一百銭
六、部二百銭
七、部三百銭
八、部四百銭
九、部五百銭
十、部六百銭
十一、部七百銭
十二、部八百銭
十三、部九百銭
十四、部一千銭

家賃

△柳宅 七圓
△仲宅 十圓
△湯屋 十圓
△商店 十圓
△白銀町 十二圓
△商店 十二圓

加藤營業所
電話 二二三番
五丁目 地所付賣家
舊跡、水丸、二ノ丸

郷土社

移轉急告!
看護婦派出の求めに應ず
平町南町
看護婦會
電話 三〇七番

美味で評判の遠藤パン
(有聲西隣)

近事雜觀

展望臺生

第五十議會の問題は貴族院改革と義務教育費國庫補助とであつたが後者は政府に於て大正十五年から併も金額は二千萬と云ふこかを言明して居るから先づ大したことはない

マツモトヤ

クースーリ

百久特價二十錢
電話 二二四番

松本屋のピスケツト

百久特價二十錢
電話 二二四番

金成醫院

外科内科 小町鎌田町
産婦人科
花柳病科
電話 三五八番

吉田眼科醫院

使用に耐ぬ鏡も安價で新品と同様に直す鏡の修繕處は
古鍛冶町通り 芳香園油店
(外に新品大小鏡各種取揃へてありませ)

提出すると言明して居る貴族院の連中もごんな形式で出て来るか今ではオツカナ

ビツクリで早くその正体を見たいものと頻りに焦心苦慮して居る

政府もこの問題に就いては其主張を顯して行かねば其の責任を全ふることが出来ぬのでやる處迄はやるだろうが公正會が既に反對の意思表示をして居り研究會としても内心好んで居らぬのだし特に勅選連中たどて自家の頭上によりかゝつて来る問題だから此の問題だけは必ずや今議會に於ける中心問題として大に賑かすに相違ない

磐城銀行

大正十四年一月十八日
右ノ通りニ候也

専務取締役	白井一郎
取締役	白井博之
取締役	木田織江
取締役	安島重三郎
取締役	山崎與三郎
取締役	諸橋久太郎
支配人	草野順平
監査役	高岡唯一郎
監査役	小野晋平

磐城建物株式會社

大正十四年一月
右ノ通候也

専務取締役	鈴木辰三郎
取締役	白井博之
取締役	井上茂作
取締役	山崎吉平
取締役	大谷久藏
取締役	柏原幸次郎
取締役	鈴木松之丞
取締役	井上貞治郎
取締役	安島重三郎
取締役	伊藤淺之助
取締役	岡田次作
取締役	山崎與三郎
取締役	諸橋久太郎
監査役	金成通

第五拾八期 營業報告書

(大正十三年七月卅一日現在)

諸債	金四・三三・二九・四六
割引手形並ニ	六七・九三・三三
荷付貸替手形	九・二四・八六
他店へ貸並ニ	九・二四・八六
有價證券	五九・六八・七五
所有不動産什器	三〇・七五・五〇
所有不動産	三三・七八・〇九
現金有高	三〇・六九・四四
合計	五九・九九・九八
負債ノ部	
資本金	七五・〇〇・〇〇
諸積立金	三九・六六・〇〇
諸預リ金	三〇・八八・〇〇
給付補填金	二・四五・〇〇
日本興業銀行並ニ	八・五三・〇〇
日本銀行並ニ	九・八〇・〇〇
他店ヨリ借	二四・五・八四・五六
借入金	六九・〇〇・〇〇
コールド・マネー	二〇〇・〇〇・〇〇
並再割引手形	三・三九・四〇
未拂配當金	五・六二・四九
未拂利息並ニ	一〇・四三・二四
未経過割引料	五・九九・〇九
當期純益金	五・九九・〇九
合計	五九・九九・〇九
特別積立金	金貳萬圓
行員退職給與積立金	金參千圓
役員賞與金	金參千圓
配當金(年一割)	金三萬七千五百圓
後期繰越金	金四萬二千九百三十三圓四錢
右ノ通りニ候也	

第十期決算報告書

貸借對照表

未拂込資本金	三三・〇〇・〇〇
預金及現金	六・七五・〇五
假拂金	二・六三・六四
營業用建物備品	八・八三・一六
物品勘定	四・八六・五七
山林勘定	四・六九・三三
持物勘定	三・五〇・〇〇
未收勘定	一・八二・〇〇
合計	五九・四三・二二
負債ノ部	
資本金	五〇・〇〇・〇〇
假受金	八・七五・〇〇
未拂配當金	三・三三・〇〇
諸積立金	九・三三・〇〇
當期利益金	五・九五・〇〇
此分配左ノ如シ	
内諸積立金	五・〇〇・〇〇
内株主配當金(年六分四厘)	四・〇〇・〇〇
内役員賞與金	三・〇〇・〇〇
内後期繰越金	一・一五・〇〇
合計	五九・四三・二二

渡邊藥局

平町三丁目
渡邊政五郎
(郵便局向)

工處方調劑
染業藥品

磐城銀行

大正十四年一月十八日
右ノ通りニ候也

専務取締役	白井一郎
取締役	白井博之
取締役	木田織江
取締役	安島重三郎
取締役	山崎與三郎
取締役	諸橋久太郎
支配人	草野順平
監査役	高岡唯一郎
監査役	小野晋平

巖谷先生を迎へて 本社主催お伽講演會

期日 廿七日午後一時
場所 磐城中等學校講堂
一、閉會の挨拶
父兄の方の御來聴を歓迎します、但し御履物を包む爲め風呂敷か新聞紙を御持参願ひます。

- 一、開會の挨拶 磐城高等女學校生徒
- 一、音樂合唱 磐城高等女學校生徒
- 一、お伽 厄鬼退治 川崎小鳥
- 一、童謡獨唱 田中馨女教諭
- 一、お伽 小猿橋 巖谷小波先生

常磐毎日新聞社 郡役所廢止後に

濱通りの支廳は何處へ

◆結局争奪戦か
而し石城は有望らしい

郡役所廢止の結果縣は縣下に四箇所に出張所を設置するやの報各地に傳はるや氣早の石城地方には既に此の語に持ち切つて居る有様だが中通り二、會津濱各一箇所にすれば濱通りは何れが適當で あるか三郡の中心から謂へば双葉郡富岡邊かも知れぬし人口状態から謂へば石城郡に設置するのが當然である而して之が設置を 決定すれば三郡が三つ巴となつて相當

思はれる而して縣の四箇所説によつて濱通りに一箇所とすれば何れの郡を選定すべきかであるが三郡の中心から謂へば
富岡で あるが同町では出張所としての設備人口の動態及交通便否町の繁榮状態から推して見ると到

期待された... 巖谷小波先生本日來平

忙し、講演の日割

既報巖谷小波先生は本日午後三時廿七分平驛着平郡線にて來平驛頭には先生を崇敬する人々多数出迎へを爲し殊に(川崎本社長籍を置く)長橋町青年分團は本社長の恩師を 迎へる故を以つて團旗を先頭に幹部達が驛頭にならび立つたのは非常に人の眼をひいた、斯くして巖谷先生は出迎への人々に謝辭を述べ直ちに自動車を駆つて尼子亭に旅装を解いたが今晚は本社長宅の晚餐に臨み明日午後一時より別項所載の本社主催お伽講演會にて



家庭欄

正月の即席肴

大根の皮をとり、厚さ五厘位の輪切りにして、大きい大根なら二つ割、(四つ割りにして)櫛形なり銀杏形なりにして

愛谷江の 改修は近し

有力家の運動

石城郡好間村の愛谷堰の改築問題は上流に於ける平窪村外二ヶ村の水害防止のため一方下流平町四箇村數百町歩の灌漑の爲め急要を叫ばれてゐるが經費負擔の關係から實現されず耕地整理法により國庫の補助を得るら、事となつたので専門技師の實地調査により二十六萬餘圓で竣成し得る設計成つたので關係村民は實現促進に奔走中であるが五分の國庫補助と縣及び村民の負擔により着工の機運に向

小野縣議の 水産工業 成績頗る良好

小野晋平氏が東奔西走席温まる暇なく計畫中なりし資本金百五十萬圓の磐城水産工業株式會社は其後着々進捗中なりしが凡ての成業をの緒につき株式募集に着手して居るが成績頗る良好にして大歓迎を受けてる状態にある而して同社は冷蔵庫の完全なる設備に意を注ぎ

鹿島火防督勵

石城郡鹿島村消防組にては廿五日午前九時より消防手總出動し各戸に火防宣傳したと

平稅務署の 實地調査

申告が少い
平稅務署管内に於ける營業稅の課稅標準届出では申告期間が餘す所僅かに一週間

意外な賣上

平署眼を廻す
昨日平町の舊二日市は好天氣の事とて人出多く本町通りは一時人を以つて埋り歩行も困難な程の雜踏を呈したが各商店も意外に賣り上げが多いらしく非常の繁昌振りを示す中に萬引七人、遺失物横領二人、泥醉檢束二人、迷子一人あり平署樞村署長は是等の指揮監督に目を廻して居た

今年はずいぶん寒く

雨もすくない
昨今平地方では近年になく寒いといはれてゐるが小名濱測候所について聞くに正月に入つてから廿日間の平均温度は最高四度九分の平均で昨年より二分比較し一度三分低く最低温度平均四度一分で昨年の三度六分に比して五分低いまた雨量は廿ミリ三分で平年の廿三ミリに比較すれば三ミリばかり少い譯になると

募集

文藝其他投稿を募集します
昨年の六度二分に比較し一度三分低く最低温度平均四度一分で昨年の三度六分に比して五分低いまた雨量は廿ミリ三分で平年の廿三ミリに比較すれば三ミリばかり少い譯になると

耳の兎

名
兎と暮した女世にも面白い話がありす宮城縣鹿野郡女川村の阿部トメといふ考婆が、この程出羽の羽黒の山深く迷ひ込みました、すると木の葉を身體にまじふた山猿のやうな女に出會ひいろ／＼話を聞いて見ると、十三の時行衛不明になつた娘のコウとわかつて喜びの涙にくれたそうですが、コウはこの十三の時に年ふりた山猿にさらはれ廿三年間この猿と同居してゐたんださうです